

会議結果報告書

会議名	平成30年度 第2回 長崎県介護予防市町支援部会
日時	平成31年 3月 13日(水) 15:15 ~ 16:45
場所	長崎県庁 307会議室
委員	委員16名(欠席4名) 傍聴4名、事務局6名(別添名簿参照)

<議事>

(1) 協議事項 長崎県の介護予防の方向性について

・資料に基づき事務局から説明を行い、委員から事業に関する意見が出された。

(主な意見等)

介護予防の取組の現状と課題についての意見

- 要支援の通所介護利用者が増えており、改善後に地域に戻す場所がない。
一度、介護保険を利用すると、依存してしまい、自立を促すのが非常に難しい。
- 高齢者の一人暮らし、夫婦の老々介護、認知症でぎりぎりの自宅で生活をしている方を周りの人が見守って生活できるような地域づくりが大事。しかし、ニュータウン的なところは、地域のつながりをつくるのが難しい。
- 行政は、運動を主体とした住民主体の通いの場を地域に増やす取組みをしている。最初は行政が入り、あとは自分たちでできるような教室等の運営をしているが、自助・互助の取組みにつなげることが難しい。また、ボランティアの育成については、市民性もあり、働けるうちは働いてという考え方もあり、ボランティアを進めていくことが難しい。
- 老人クラブではなくて、「寿会」に名称を変えたら入るという人がいた。75歳くらいまでは、働くという考え方がある中で、老人会へ呼びかけをしても入会にはつながらない。

フレイルチェック事業についての意見

- 住民の介護予防に対する意識、早期からの取組みが不十分であるので、フレイルチェック事業により、フレイルの知識を啓発する事業に期待している。住民が介護予防、自立支援の言葉の意味を理解し、同じ方向性に向かうための話し合う場をつくるのが大事。
- プレフレイルの状態にオーラルフレイルが含まれており、フレイルを早期に発見するフレイルチェック事業では、オーラルフレイルも含めて早期発見していくとよい。その際、お口のチェックシートを活用し、口腔のリスクを判定し、介護予防につなげていく。

今後の介護予防の取組みについての意見

- 食の問題を軽視して、疾病や介護につながっている現状がある。長崎県は、食が豊かである。食に関する標語等を作成するなど、健康寿命の延伸につなげていく取組みが必要。
- 運動習慣や歩数などの圏域毎のデータがあれば、広域支援センター等の介護予防の取組の戦略として活用できる。
- 介護予防は、運動だけでなく、仲間作りが大事、自助、互助を増やすのが重要である。
地域の公民館等で集まり、体操やものづくりをして、お互いにできないことを補完しあい、コミュニケーションがとれる交流の場が地域の中で展開できると介護予防につながる。
- 地域住民も地域の課題をなんとかしたいと思っている。そういった方に専門職や行政が関わり、巻き込んで、つながることが大事。

- 老人クラブでは、健康運動、シニアスポーツ、健康や介護予防等の研修会等、日頃の活動の中で、介護予防、健康づくりについて、重点事項という形で取り組んでいる。自助、互助の取り組みがキーワードになる中で老人クラブは、地域の中で果たす役割大きくなっている。老人クラブは会員が減少しているが、これまで育んできた健康づくり、介護予防の活動をとおして地域の中で役割を果たしていける。会員、非会員を問わず、活動の裾の尾を広げていくことも重要。
- 75歳以上が無料で受けられる口腔機能も含めた検診を周知広報するのもよい。
- 要介護認定者は肺炎のリスクが高くなる。誤嚥性肺炎は口腔のリスクと絡んでいる。肺炎の実態を把握するとよい。
- 歯科の介護予防の視点では、80歳で20本残っていることも大事だが、しっかり食べれるか、咀嚼、お口の乾燥のデータの方が、生活、介護予防に必要なデータである。